

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		ブロッサムジュニア岡崎南教室（児童発達支援）		公表日		2026年3月17日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		午前・午後と児発・放デイと教室を分けている	現状は適切なスペースを確保できているが、利用者数が増えた場合には、活動内容や導線に配慮しながら環境づくりに配慮する。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		子どもがいる際少しでも職員がその場を離れる時は職員間で声かけをしている。	突発的な職員の休みが生じた際に、職員配置に余裕がなくなる場合があるので、今後は職員配置に余裕のある体制を整えます	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		視覚で注意喚起ができるように標示設置をしている。	個々の特性に応じた配慮が十分に行き届いていない部分もあり為、職員同士で意見を出し合い不備がないよう努めていく	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		毎日清掃を実施	手洗い場の床が濡れると滑りやすい状態になる為、周知徹底や滑りにくい素材に変更していく	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		部屋の鍵は子どもが届かない高さになっている	背が高い子どもは、椅子を使うと鍵に手が届くため、付近に椅子を置かない	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		毎朝の朝礼で、前日の振り返りとその日の支援内容を話し合っている	ミーティング時間をもう少し充実させ、職員のレベルアップを図りたい為、定期的に時間をとった会議をしている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		保護者からの意向は意向は些細なことでも職員共有している	保護者からの意向を職員同士で話し合い、更に業務改善に努めている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		職員が意見を言いやすい用に雰囲気作りに努めている	現在、定期的な場を設けていないが今後設けていく	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	現在、第三者による外部評価は実施しておりませんが、職員間での振り返りや保護者アンケート等を活用し、支援内容の見直しや業務改善に取り組んでおります。	今後は外部評価の活用についても検討してまいります。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		FC本部から研修機会を設けている	現在は、グループ内での研修だが今後はグループ外での機関の研修も考慮していきます	

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	保護者とのアセスメントをしっかりとって作成している	現在、支援プログラムは作成しているが、保護者への周知方法などの改善を職員同士で提案している
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4	保護者との話をしっかり行い話を聞いている	保護者からの聞き取り機会を増やし、ニーズの把握をより丁寧に行う。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	ミーティングをしっかりと行いスタッフ内で共通理解を行っている	子どもの成長や変化に応じて計画内容の見直しを適切に行い、より質の高い支援につなげていく
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	支援計画ができれば全員共有の為にミーティングをしている	計画に沿って支援を行っているが、日々の支援の中で振り返りをする時間をさらに設けていく
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	事業所でアセスメントシートを作成しアセスメントを行っている	今後は、より客観的な視点で子どもの状況を把握できるよう、必要に応じてアセスメントツールの活用について検討していく
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	ガイドライン4領域を確認しながら計画を作成している	地域支援・地域連携の内容の視点をより具体化し、実践につなげる。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	職員ミーティングを行いながら立案している	職員数が限られているため、活動プログラムの立案が偏る傾向がある。今後は、客観的視点を入れながら立案できるよう進めていく
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	基本的に違うことを行っている	新しい活動プログラムを検討する時間が十分に確保できないことがあるため、今後は打合せや情報共有の機会を設けていく
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	送迎時に保護者と情報を共有し子どもの状況に応じた支援を行っている	児童の特性や人数によっては、集団活動の内容が限られる場合もあるため、より多様な集団活動プログラムを検討していく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	朝礼で打ち合わせを行い、支援内容の確認や各先生の役割分担、注意事項等を職員内で共有している	サービス提供時間前に送迎等で教室を出発する日などは、支援開始前に打ち合わせが難しい為前日の終わりにしている
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	前日と当日の振り返り・打ち合わせを行っている	送迎等の関係で全職員が集まって、振り返りを行う時間が十分に取れない場合、情報共有の方法などを今後工夫していく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	業務日報や職員共有欄に記録し必用時に情報共有を行っている。	職員によって記録内容や視点に差が出る場合があるため、記録方法の統一や共有の仕組みを整えていく

	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		保護者だけでなく他施設や相談員と情報共有をしている	情報共有の仕組みをより統一し支援の一貫性を高めていく	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		現場の職員だけでなく相談支援員や併用事業所と情報共有を行っている	地域交流の機会が少ないため地域資源を活用した活動を検討していく	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		送迎時に保育園と情報共有を行っている	自己決定をする支援を行っているが、児童の特性等に合わせた自己選択をより多様化していく	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		現場の職員だけでなく相談支援員や併用事業所と情報共有を行っている	業務等により、必ずしも関わりの多い職員が会議に参加できない場合がある為、スケジュール調整を行いながら参加する	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		保護者を通し情報共有を行っている	必要に応じて関係機関との連携は行っているが、情報共有の機会を増やし、より円滑な連携体制を整える	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				保護者を通して情報共有を行う場合が多いため、学校側との連携を深めていく	
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				関係機関との情報共有は必要に応じて行っているが、より円滑な引き継ぎが行えるよう連携機会の確保を強化していく	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				今後のために話しあう機会を設ける	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				地域の児童発達支援センターとの連携は十分といえない為、今後は連携を強化していく	
	31	(31は、事業所のみ回答)		2	2		放課後児童クラブや児童館、地域の子どもと交流する機会が少なく、参加者が集まりやす協議会で得た内容を職員間で共有・フィードバックをする体制の強化をしていく
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		4		季節のイベントを企画している	日々の情報共有は行っているが、子どもの状況や課題について話す機会を定期的に設ける	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4			送迎時や電話等で情報共有を行っている	家族支援プログラムの研修の機会が少ないため情報収集し保護者への提供していく	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	3	定期的な情報共有の機会を設け、家庭での様子と事業所での様子を相互に確認している	1度の説明では理解が難しい場合があるので定期的な再説明の機会を設ける
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に丁寧に説明している	意向確認は行っているが十分とは言えない点がある為、保護者などと密に連絡を取り入れる
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		保護者や相談員・併用事業所の話聞き意向を確認している	保護者への説明の時間が十分に確保できない場合があるので計画内容の理解をより深めてもらう為、分かりやすく説明していく
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		教室にて保護者に支援計画の説明を行っている	面談の機会が限られており、保護者からの相談に十分に対応できていない場合があるため、相談しやすい環境作りを行う
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		送迎時や電話で対応している	保護者会等の開催ができておらず、保護者同士やきょうだい同士の交流する機会を設けられていないため、今後イベントなどを企画し
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		4	日々の送迎時やHUG、個人面談を通し不安や悩みに対して必要な助言や情報提供を行っている	苦情体制について、保護者への周知が十分とは言えないため、口頭や文面でお知らせしていく
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		相談があったその日、または翌日に情報共有し対応するようにしている	行事予定が投稿できていないが投稿していく
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4		インスタグラムやブログを投稿している	職員一人一人の意識を継続的に維持していく為、定期的な確認を行う
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		SNSの投稿にはモザイク等を使用。保護者に同意を得ている	現状の配慮を継続しつつ職員間での共有と見直しを行っていく
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		必要時に応じて対応している	地域住民との交流の機会が少ないため、今後は行事等を通して地域に開かれた事業所運営を図っていく
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4	教室に興味を持つ方が参加できる季節のイベントを企画しSNSで宣伝している	マニュアル策定や訓練は実施しているが、職員や家族への周知をより徹底していく
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		定期的に研修を行い訓練を実施している	現状十分といえない為、訓練の実施状況や気づきを記録として残し訓練やBCPの見直しに活かせるようにする
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		避難訓練を活動内に取り入れている	利用時に確認しているが、状況の変化等もあるため、定期的な情報更新と職員間の共有をより徹底していく

非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		まだそのような事がない	今後もアレルギー情報の確認・更新を行い、緊急時対応を含めた職員間の共有体制をより強化していく
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		対象児がない	研修は実施しているが、安全管理の意識を高めるため、定期的な振り返りや共有を強化していく
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		定期的に研修を行っている	1回の周知では共通理解が難しいため説明の機会を設ける
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		契約時に伝えている	ヒヤリハットは記録しているが、事業所内での共有や振り返りの機会をさらに増やしていく
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハットが起きた際に記録に残し、再発防止に向けて職員内で検討している	研修は実施しているが、虐待防止に関する理解をより深めるため、継続的な研修や情報共有を行っていく
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待防止委員会を設置し定期的に研修を行っている	1回だけでなく複数回説明の機会を設け共通理解を深める
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		身体拘束は原則行わないことを基本とし必要が想定される場合には事前に保護者へ説明し、サービス計画に記載した上で職員間で共有している	1回だけでなく複数回説明の機会を設け共通理解を深める必要がある